

教皇は司祭たちが奉仕に命を捧げるように励まします

ご聖体

今日のお祝いで私たちが生きている現実とは、主がご聖体で私たちと一緒にとどまることを望んでおられるということです。そして私たちがいつも主のご聖櫃とることです。私たちによって主をお運びするので、主がおっしゃる通り、もしも私たちが彼の体を食べ、彼の血を飲まないのなら、私たちは天の国に入れたいのです。これが私たちと共に、私たちの内で、起きているご聖体と御血の神秘です。

仕える

仕える行為は天の国に入れるための一つの条件です。仕えるのは全ての人に対してです。洗足の場面での主とペトロとのやり取りでわかるように、天の国に入るためには、主が私たちに仕えるがままにしなければならないのです。神に仕える主は、私たちにも仕える者です。しかし、実践するのは難しいのです。主が私の足を洗い、私を成長させ、私を赦し、・・・と主が私に仕えるがままにしなければ、私は天の国に入れたいです。

司祭職

今日、私は司祭方の近くにいたいのです。全ての司祭、教皇に至るまで、私たちは全て司祭です。司教もです...私たちは塗油されました。主によって塗油され、ご聖体となるために塗油され、仕えるために塗油されました。

今日、ミサはありません。聖霊降臨の前には出来るように願っています。そうでなければ来年まで延ばさなければならないでしょう。しかし、私は司祭の事を思わずに、ミサをなくしたままにはできません。

主のために命を捧げている司祭、仕える者となっている司祭がいます。この頃、イタリアでは病院の病者のために、またお医者さん、看護婦さん、看護師さんのために仕えた司祭が60人以上亡くなっています。彼らは知られていない聖人です。司祭が命を捧げて仕えたのです。私は遠くにいる彼らの事を思っています。

今日、私はある司祭から手紙を受け取りました。遠くにある刑務所の司祭です。どのようにこの聖週間を囚人と過ごしているか彼は語っています。フランシスコ会士です。福音をもたらすために司祭たちが遠くに行き、そこで死んでいます。ある司教は彼が最初にしたことを話しました。このミッションの任地に着いたら墓地に行き、この地域のペストで命を落とした若い司祭たちの墓をお参りしました。彼らは派遣のための準備がされていませんでした。抗体がありませんでした。

誰も彼らの名前を知りません。匿名の司祭たちです。田舎の山の中にある、4つ、あるいは5つ、あるいは7つの村の主任司祭で一つ一つの村をめぐり人々を知っています。その地方の人の名前を全て知っている聞いたことがあります。「本当ですか」と言うと、「犬の名前まで知っています。」彼らは全てを知っています。聖職者の鏡です。ブラボ、良い司祭たちよ。

今日、私は心で彼らを抱き、祭壇に連れてきます。列福された司祭たちよ。

この頃は、ある司祭による悪事が明るみに出たことによって罵られるので、司祭が通りを歩けないことがよくあります。ある者はプロテスタントの牧師と一緒にないと外出できないといひます。侮辱されるからです。このような状態が続いています。罪びとである司祭たち、罪びとである司教たち、罪びとである教皇と共に、赦しを願うこと、そして赦すことを忘れてはいけません。私たちは皆罪びとなのです。この危機に苦しむ司祭たちはどのようにしたらいいか分かりません。暗闇にいます。

今日、あなた方皆、兄弟である司祭たちよ。あなた方は私と一緒にこの祭壇にいます。あなた方、聖別された者よ。一つだけ言ひます。ペトロのように頑固になってはいけません。足を洗うがままにさせなさい。つまり、洗われることの必要を意識して、大きな赦す者となりなさい。赦しなさい！赦しの中に大きな寛容の心を持ちなさい。これが私たちが測られるであろう測りなのです。あなた方が赦したように、あなた方も赦されるのです。同じ測りです。

赦すことを恐れてはいけません。時々、疑いがあります。十字架を見なさい。ここに全ての人の赦しがあります。勇気を持ちなさい。慰めるために、危険を冒し、赦す勇気を。今赦しの秘跡を与えられないのなら、少なくとも一緒にいる兄弟に慰めを与えなさい。この人が戻ってこれるように扉を開けておきなさい。

私は主に司祭職のお恵みに対して感謝します。私たちすべてが感謝します。私はあなた方司祭のために主に感謝します。イエスはあなたを愛しています。イエスはただあなた方の足を洗わることがままにして欲しいと願っています。